

第 41 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム学際研究賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

春野 雅彦 氏

(情報通信研究機構未来 ICT 研究所脳情報通信融合研究センター 室長)

テレコム学際研究賞 入賞

「Feedback from an avatar facilitates risk-taking by modulating the amygdala response to feedback uncertainty」



この度は、「第 41 回 電気通信普及財団賞テレコム学際研究賞 入賞」にご選出いただき、誠にありがとうございます。電気通信普及財団の皆様、ご審査いただいた先生方、ならびにご推薦くださった先生方に、心より御礼申し上げます。

近年、アバターの利用は急速に広がっています。一方で、その心理的・神経科学的な効果は、これまで十分に検討されてきませんでした。本研究では、相手がアバターとして表示される場合に、私たちのリスク選好がどのように変化するかを調べました。その結果、相手がアバターとして表示されると、相手からのフィードバックの不確実性に対する感度が増加し、よりリスクを取りやすくなることがわかりました。さらに、このアバターによるリスク選好の変化は、対人反応性指標(相手の反応をどの程度気にするかを示す心理指標)と関連し、脳深部の扁桃体における不確実性への活動によって説明されることを明らかにしました。本研究の知見は、今後の情報通信におけるサービスやコミュニケーションの質の向上に寄与するものと期待しています。

本研究の遂行にあたり、多大なるご支援とご議論を賜りました情報通信研究機構未来 ICT 研究所 脳情報通信融合研究センターの皆様へ、深く感謝申し上げます。

また、日頃より研究活動を支えてくださった研究室の皆様にも、心より御礼申し上げます。本受賞を励みに、神経科学分野のフロンティアをさらに前進させるべく、今後も研鑽を続けてまいります。

末筆ながら、このような貴重な機会をいただきましたことに改めて感謝申し上げるとともに、貴財団の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



第41回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム学際研究賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

高野 雅典 氏

(株式会社サイバーエージェント 学際的情報科学センター リサーチャー)

テレコム学際研究賞 奨励賞

「Reducing sexual predation and victimization through warnings and awareness among high-risk users」



この度は、「第41回電気通信普及財団賞テレコム学際研究賞 奨励賞」にご選出いただき、誠に光栄に存じます。電気通信普及財団ならびに審査委員会の皆様、共同研究をご一緒した共著者、そしてさらなる安心・安全なコミュニティづくりに共に取り組んでくださったピグパーティ関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

受賞論文では、心理学と機械学習によってトラブルの芽が小さい段階でリスクが高まりやすい場面に着目して、注意喚起・啓発メッセージを届ける仕組みを設計しました。実際のサービス運用の中で効果を確認した結果、違反行為・被害の低減を確認し、利用継続への大きな影響も見られませんでした。今後もプライバシーと公平性に配慮しつつ、「予測と予防」に基づく安全対策を磨き、すべてのユーザーが安心して楽しめるオンライン空間の実現に貢献してまいります。

第 41 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム学際研究賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

鈴木 俊汰 氏

(慶應義塾大学大学院 理工学研究科 開放環境科学専攻 前期博士課程 2 年)

テレコム学際研究賞 奨励賞

「EarHover: Mid-Air Gesture Recognition for Hearables Using Sound Leakage Signals」



この度は、「第 41 回電気通信普及財団賞テレコム学際研究賞 奨励賞」にご選出いただき、誠に光栄に存じます。選考委員の皆様、ならびに関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

本論文は、日常的な情報端末となったイヤホンなどのヒアラブルデバイスにおいて、非接触での空中ジェスチャ操作を実現する「EarHover」を提案したものです。デバイス特有の「音漏れ現象」と手の動きによる「ドップラー効果」に着目し、内蔵スピーカーと外部マイクからの音響信号を深層学習で解析するアプローチをとりました。新たなセンサーを追加するコストをかけず、既存のデバイス構成のまま高度なインターフェースを実装できる可能性を示した点が、本研究の大きな特徴です。

本研究は、ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) 分野のトップ国際会議である ACM UIST において Best Paper Award に選出されるなど、国際的にもご評価をいただくことができました。本研究の遂行にあたり、多大なるご指導を賜りました共同研究者の杉浦裕太先生、雨坂宇宙先生、志築文太郎先生、渡邊拓貴先生に心より感謝申し上げます。また、評価実験にご協力いただいた皆様、そして研究活動を支えてくださる数多くのご支援の賜物であり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

今回の受賞を励みとして、人間の生活環境と情報通信技術がより自然に調和する次世代のインタラクション技術の発展に向け、今後も一層精進していく所存です。末筆ではございますが、貴財団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



第 41 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム学際研究賞～

<順不同>

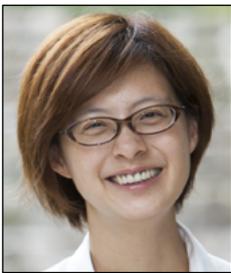
※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

Ho, Hsin-Ni 氏

(九州大学大学院芸術工学研究所 准教授)

テレコム学際研究賞 奨励賞

「Perceiving Synchrony: Determining Thermal-Tactile Simultaneity Windows」



この度は、「第 41 回電気通信普及財団賞テレコム学際研究賞 奨励賞」を賜うことができ、大変光栄に存じます。電気通信普及財団の皆様、審査員の皆様に心より感謝申し上げます。

遠隔コミュニケーションは広く普及しているにもかかわらず、臨場感や一体感の希薄化や孤独感といった課題が依然として存在しています。触覚と温度感覚を含む皮膚感覚は、物体の質感や接触の実在性を知覚および伝達するうえで重要な役割を果たします。しかし、これらの感覚がどのような時間関係のもとに脳内で統合されるのかは十分に明らかになっていませんでした。本研究は、この統合特性を定量的に解明し、人間の知覚特性に基づいた皮膚感覚提示技術の設計指針を提供するものです。

今回の受賞を励みに、皮膚感覚を介して距離を超えた臨場感や一体感を伝達する新たな情報通信の実現を目指し、人と人、そして人と世界をより深く結びつける情報通信技術の確立に貢献してまいります。